

2020年度

三重大学 人文学部法律経済学科

## 特殊講義 「協同組合論」



<第9回(ZOOM)>

### 「働く人の協同」

豊内 和寿 / 日本労働者協同組合連合会センター事業団  
東京南部事業本部 総務経理センター長

第9回（11月30日）：受講46名（市民開放授業一般受講者等を含む）

協同労働の協同組合とは、働く人びと・市民が、みんなで出資し、民主的に経営し、責任を分かち合っ、人と地域に役立つ仕事をおこす協同組合である。労働者協同組合は、誰もが自分らしく働き、暮らし続けることができる地域社会づくりをすすめている。国会で労働者協同組合の法制化がすすめられており、この法律ができると企業での雇用や自らが起業するといった働き方とは別に、新たな働き方の選択肢が広がることになる。

#### 【第9回／講義の要旨】

- ・協同労働とは、働く人、利用者、市民が協同し、「ともに生き、ともに働く」社会をつくる労働である。
- ・協同組合運動の父と言われているロバート・オーウェンは、「産業上の自由をもつ手段として、労働組合のかわりに、組合的な企業を組織すること」が大事であると唱え、イギリスに多くの労働者協同組合が誕生するきっかけとなった。また、1844年にロッヂデール公正先駆者組合が設立され消費者を視点にした協同組合が誕生し成功することになる。
- ・スペインのモンドラゴンでの発展と「レイドロー報告」で、労働者協同組合の必要性が再評価された。労働者協同組合の再生は、労働が資本を雇うことになり第二次産業革命の始まりを意味すると予想されている。
- ・ワーカーズコープの歴史は、中西五洲氏から始まった。国の失業対策事業の打ち切りから、その事業関連で働いていた方々によって事業団をつくり事業を継続してきた。1986年に、日本労働者協同組合連合会を設立し、事業モデルとしてセンター事業団を設立した。人と地域に役立つ「よい仕事」をするという考えは、今も継承されている。
- ・ワーカーズコープでは、「地域福祉事業所」の開設や、指定管理者制度に基づき多くの施設で管理運営の受任、F（食）・E（エネルギー）・C（ケア）を自給・循環する地域コミュニティづくりをすすめている。
- ・日本には「労働者協同組合」を規定する法律なく、国会で法制化に向けて審議されている。「労働者協同組合」の法律が出来ることで、3人以上集まれば誰でも労働者協同組合を設立することができるようになる。企業での雇用や、自ら起業するとは別の働き方の選択肢が、ここから広がることになるのである。

## 第9回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・労働者協同組合の法律を作ることで、法人格がもてるのはもちろん、協同組合の地名度をあげられるということは確かに大きな一歩だと感じたし、先進国の中でそのような法律がないのは日本だけだということにも驚いた。近く成立しそうであるとのことで、法制化を働きかけ続けてきた結果なのだろうと感じた。また、赤字が出ることに對して非常にシビアな感覚を持っていらっしゃるようで、協同組合においてもそういった意識は大切なのだと感じた。
- ・高齢者や障がい者福祉、子育て支援、など地域に密着した取り組みなどをされていることが強く印象に残りました。特に、誰もが自分らしく働くことができる社会を目指して、働くことが困難な人々や生活保護受給者、障がいがある子どもたちに、困難があっても自分らしく働くことができるようにサポートする取り組みは本当に地域を大切に思っているのだと感じました。
- ・これまでの生協や農協などと違った働く人の協同組合であり、聞いたことがなかったので最初は身近に感じなかったが、理念や活動内容などを聞いて、ワーカーズコープが目指すのは自分が理想とする社会のあり方だなと感じた。数年後に社会に出る身として自分もそういった社会を実現するためにどうすべきか考えていきたい。
- ・協同組合の事業には本当に多くの方が助けられているんだなと資料の写真をみて感じました。困っている人たちの受け皿になることでその人たちの居場所が出来ているのではないかと思います。また、このコロナによってそういう人たちが集まる機会が減っているのではないかと思います。そのためオンラインでそういう人たちの居場所をつくるために何かしていかないといけない必要性があるのではないかと思います。
- ・組合員がその現状をどのように受け止め、改善していけばよいのかを考える必要があると思った。恩恵を受けるばかりで、組合の現状について考えようとしなければ、それは協力しているとは言いがたいのではないかと思います。三重大の生協もコロナ禍で赤字になっていると聞いたので、ウイズコロナの時代になり、私たち組合員がその状況をどのように打破していくのかについて、真剣に考える必要があると思った。
- ・働く人たちが全員で出資をして、民主的に経営をして、地域や人々の役立つような仕事をする労働者協同組合がどのような歴史で成立して、どのような活動し、現在ではどのような活動で成り立っているのかをよく知ることができました。なかでもコロナ禍において、近年にまれに見るような黒字の経営だったとしても、それはよくない黒字であって、むしろ悪い傾向であると言うようなお話には衝撃を受けました。今日の講義で、労働者協同組合について知ることができましたが、それはまだ変化にある途中にある姿にすぎず、これから参議院で法案が可決されれば、更なる飛躍が期待されることでしょう。ですので、自分もこれからの動向に注目して、さらに労働者協同組合とはどのような組織となっていくのか、また経済に与える影響はどのようになっていくかを考えていきたいと思いました。
- ・レイドロー報告において、労働者協同組合の再生は、第二次産業革命の始まりを意味し、「労働が資本を雇う」とあったが、普段私たちの考える労働とは反対の考え方であったため驚いた。資本があるから（出資者がいるから）工場を建設でき、労働ができるというのが株式会社の成り立ちには必要である。これは、まさに市場競争による利益追求の典型的な流れであり、今日の資本主義社会の象徴であると私は考える。しかし、労働者協同組合は自分たちで出資し仕事を創造するため、出資者や株主が支配権を持つには至らない。所有と経営の分離がされているわけではないが、所有と経営が全員に分配されているため、独裁が起こらず、問題があまり無いと考えられる。よって、自分たちによる自分たちの目的に適した事業活動ができ、非常に効率の良い組織であると感じた。

- ・コロナの影響で活動が行えない分資金が余っている状態である現在、本来の資金余剰ではないことをどう地域の人々と活動してコロナを乗り切るか、どういった活動ができるかを模索しているといった話で今の状況を乗り切るためにやはり人々とのつながりをとても重要に感じたし、本来の資金余剰でないということを自覚しそれをどう改善していくか考えていることに協同労働のすばらしさを感じた。
- ・ワーカーズコープの事業は地域復興が中心であり、地域密着の福祉・介護から、子育て支援、公共施設の管理といった幅広い分野に取り組んでいることが分かりました。講義の中でも取り上げられていたように、定年退職をした方々の中高年雇用も実施されており、定年後に地域に貢献できる仕事が存在することは大変良いことであると思いました。こうした働き方が増えることによって、地域社会が活性化される、社会構造が変革されるといったことにも繋がっていくのではないかと感じました。これから法制化に向けての取り組みにおいてどのような進展があるのか、関心を持って生活していきたいと思います。
- ・地域創生の大切さを知りました。私は、今まで大企業にまかせて安定的な管理をさせたほうがよいのではないかと考えていました。しかし、それでは地域活性化や地域とのふれあいつながらなないと考えさせられました。また、施設の管理以外にも国に頼らずとも市、町という小さなまとまりでつながり、活性化をさせることが大切だと思いました。授業の最後におっしゃっていた児童館にきた障害を持つ18歳の女性の話を聞いて本当に協同組合は、今回の女性のみならず、一人ひとりの組合員、人に親身になって事業、行動をしていると感じました。
- ・丁寧な仕事やまじめに取り組む姿勢が大切であると感じました。地域に必要な仕事は地域住民が担うという言葉のもとで指定管理者制度の導入に伴い多くの公共施設の運営を担うなど地域との結びつきが気の付かないところで多くあると感じました。働く人がお金をだし、やりたい仕事をしていくということは夢を実現することになり、また人のためにもなるということでWinWinの関係だと思いました。また、利益にならないような活動でも、それをきっかけに協同組合を知ってもらう機会になり、今後の活動の利益につながるのではないかと感じました。
- ・ワーカーズコープの歴史の中で、だれも雇ってくれないなら、自分たちの働く場は自分たちで作るという部分があるが、この考え方は、現在のコロナウイルスのような、職を失う人が多く出るようなときこそ必要な考えであると思う。障害のある人や高齢者、生活困窮者など、一般的な仕事をするのが難しい人であったとしても、労働者協同組合のような働く場を働く人が作る協同組合であれば、それぞれが自分らしく働けるような社会を作ることができると感じた。
- ・ワーカーズコープが、地域にとっても必要とされている存在であるということがとても伝わりました。そして、ワーカーズコープは企業に雇われることでも、自分で事業を行うことでもないという位置づけについても理解できました。また、日本に労働協同組合を規定する法律がなかったことに非常に驚きました。日本ではかなり働き方についての意識も高まりつつあると感じていたため、法制化の面で他の先進国よりも遅れているということに驚きました。また、法制化されることで、活動が楽になるわけではないとはおっしゃっていましたが、これまで以上に支援の幅が広がったり、働きやすいと感じられる人が増えたりするのではないかと感じました。皆が自分らしく働き、暮らしていくことを実現することはかなり大変なことであり、それを持続させることはさらに多くの人が必要であると感じました。そのような地域とともに地域を支える事業を行っている方々のお話を聞くことができ、大変興味深かったです。

以上